

みみろくさん伝説

(耳)

昔、耳集落に親孝行で働き者の若者が住んでいた。大変な働き者であったが、耳の病を患い、とうとう聞こえなくなってしまう。それでも若者は家業に励むとともに、村のため、困っている人たちのために一生懸命に働き続けた。

そのころ、全国に仏法を広めるために行脚※あんぎゃされていたお坊様が耳集落にお立ち寄りになり、この若者の話をお聞きになり、大変感心されて、不思議な法力ほうりきをお授けになるとともに、「広瀬集落の権現様には靈驗あらたかな弥勒菩薩様がおいでになるので、その仏様をお迎えしてお祭りするように」と言い残して耳集落を立ち去って行かれた。若者は奥深い谷に入って身を清め、険しい山道を登って広瀬の権現様にお参りし、弥勒菩薩を耳集落へお迎えしたいとお願いした。そして菩薩像を背負って、持ち帰り、小さい祠ちいほこらを建ててお祭りまつした。不思議に若者の耳の病もよくなり、聞こえるようになった。智恵も優れた好青年になり、お嫁さんも迎えて幸福に暮らしたという。



(出典：『ふるさと小鴨谷 第一輯』 上小鴨文化協会)

(注)

行脚：僧が修行のため各地を歩き回ること